

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
文化財保存活用課 生涯学習課	村田 雅之 松本 優

重点目標	6 歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます
基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。

1. 施策の方向性

PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用	① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画に基づき、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。
3. 資料館施設等の整備充実	① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。
4. 文化芸術活動の推進	① 「京丹後市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	
京丹後市文化財保存活用地域計画	「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」ととらえ、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進める指針とするもの	令和4年12月	令和5年度～令和9年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧		PLAN	DO	※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照		CHECK	ACT
1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善		
主な取り組み		R5決算額 R6決算額 R7予算額			評価を踏まえた今後の方向性		
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。							
② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。							
③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。							
1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善		
主な取り組み		R5決算額 R6決算額 R7予算額			評価を踏まえた今後の方向性		
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
1 郷土資料館管理運営事業		文化財保存活用課					
郷土資料館は、市内の主に民俗資料等を整理・収蔵・調査・公開する施設である。特色ある本市の文化・風土・伝統などを紹介し、文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ向けて郷土の歴史文化への興味関心を高める役割も果たす。		2,173	1,855	8,377	拡大		
2 古代の里資料館管理運営事業		文化財保存活用課					
丹後古代の里資料館は、市内の主に考古、美術工芸、古文書、歴史資料を収蔵・調査・公開する施設であり、本市の文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ地域学習の場や郷土の歴史への興味関心を高める役割も果たす。		13,353	17,584	17,906	現状維持		
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用		決算額(単位:千円)			事務の改善		
主な取り組み		R5決算額 R6決算額 R7予算額			評価を踏まえた今後の方向性		
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。							
② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。							
③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。							
④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。							
3 指定文化財等管理事業		文化財保存活用課					
市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、所有者に対し修理や保全に係る補助金を交付するとともに、市所有の重要文化財等の保存処理及び修繕を実施する。また、市内指定文化財(国、府、市指定文化財)等を適切に維持管理し、指定文化財等の普及啓発を図る。		11,943	11,261	18,195	拡大		
4 遺跡整備事業		文化財保存活用課					
地域の特色と歴史を物語る重要な史跡等を有効に活用するため、史跡整備を推進する。国史跡網野銚子山古墳の保存・活用に向け、令和6年度は、埴輪列一部復元、説明板等設置、休憩施設建築、駐車場・道路整備等などの環境整備を実施し、整備完了を予定している。		53,666	54,002	131,028	拡大		
5 遺跡発掘調査等事業		文化財保存活用課					
市内に残る遺跡等の適正な保存・活用のため、開発に先立つ発掘調査を実施して開発事業との円滑な調整を図るとともに、状況確認のための発掘調査及びその成果をまとめる整理作業を実施し、公表する。		4,642	2,637	2,144	現状維持		
6 地域文化財総合活用推進事業		文化財保存活用課					
文化庁の認定を受けた「京丹後市文化財保存活用地域計画」により、京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民遺産会議を運用するほか、京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会による進捗管理などを行う。		5,227	597	1,181	拡大		
7 地域文化財総合活用推進事業【繰越】		文化財保存活用課					
市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。		-	-	-	現状維持		
8 文化財保存活用基金		文化財保存活用課					
京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、本市の貴重な文化財の保存及び活用を進めることを目的に、「文化財保存活用基金」に積み立てを行うもの。		34,586	52,397	-			
3. 資料館施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善		
主な取り組み		R5決算額 R6決算額 R7予算額			評価を踏まえた今後の方向性		
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。							
② 児童生徒を対象とした社会科学学習、郷土学習を進めます。							
③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。							
④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。							
9 郷土資料館管理運営事業【再掲】		文化財保存活用課					
郷土資料館は、市内の主に民俗資料等を整理・収蔵・調査・公開する施設である。特色ある本市の文化・風土・伝統などを紹介し、文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ向けて郷土の歴史文化への興味関心を高める役割も果たす。		-	-	-	現状維持		

3. 資料館施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
	10 古代の里資料館管理運営事業《再掲》 文化財保存活用課 丹後古代の里資料館は、市内の主に考古、美術工芸、古文書、歴史資料を収蔵・調査・公開する施設であり、本市の文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。また、「丹後学」など学校教育と連携を図りながら、市内小中学生へ地域学習の場や郷土の歴史への興味関心を高める役割も果たす。	-	-	-	現状維持
	11 資料館等指定管理施設運営事業 文化財保存活用課 琴引浜鳴き砂文化館は、本市の豊かな自然環境のシンボルである琴引浜の鳴き砂についての展示や様々な体験事業を実施し、普及啓発を行う施設である。また、世界認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設としても位置付けており、他の関連地域や施設と連携し積極的な事業展開に努める。	10,204	10,329	10,740	現状維持
4. 文化芸術活動の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。					
② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。					
	12 文化芸術事業《再掲》 生涯学習課 令和5年度に策定した「文化芸術振興計画」に基づき、だれもが文化芸術に親しみ、人が輝き、豊かで活力ある生活が送れるよう、市民等が相互に連携し、一体となって文化芸術によるまちづくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。	-	-	-	現状維持
	上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業				
		R5決算額	R6決算額	R7予算額	評価を踏まえた今後の方向性
	13 文化財保護審議会委員設置事業 文化財保存活用課 文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。	127	105	140	現状維持
	14 文化財保護一般経費 文化財保存活用課 文化財の保護と活用を図るため、郷土資料館、丹後古代の里資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行い、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。また、市が所蔵する小牧源太郎の絵画を公開し活用を図る。	2,281	-	-	統合(整理)
	15 文化財保存活用一般経費 文化財保存活用課 文化財の保存と活用を図るため、資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行うとともに、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。	-	381	228	統合(整理)
計		124,849	133,564	172,033	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。						
	目標指標	単位	計画作成時 年度	実績値(現状) 年度	目標値 年度		
主な目標指標	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座) H25	699 R6	1,700 R6		
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設) H25	12,016 R6	18,000 R6		
	史跡整備	遺跡	6 H25	7 R6	8 R6		
	京丹後史博士の認定者数	人	-	67 R6	120 R6		
	文化協会加盟サークル数	団体	170 H25	106 R6	200 R6		
	文化芸術事業の開催回数	回	- R1	46 R6	100 R6		
	京都府丹後文化会館利用者数	人	- R1	28,562 R6	42,000 R6		

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和6年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	▲	《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 建造物修理現場公開や古墳発掘調査現地説明会など、関係機関と協力しながら現地見学の取り組みを増加した(8件、340人)。また、初めての試みとして文化財めぐりマップを利用したスタンプラリーを行った(参加者88人)。そのほか外部からの出前講座等の対応を行った(14件、271人) 今後も引き続き、継続的にセミナー等を実施することとしたい。 《資料館、文化館入館者数》 全体として入館者は前年度実績と比べ112%の増となった。丹後古代の里資料館・郷土資料館・鳴き砂文化館資料館の入館者は回復傾向とみているが、コロナ前の水準には達していない。 今後は、各館ともに、連携による事業実施を行い、集客増につなげていきたい。 《史跡整備》 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の検討を進めながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和6年度で古墳本体の整備工事を終了することができた。しかし、同時に予定していた駐車場・ガイダンス施設の工事については、令和7年度への繰越事業として引き続き工事を進めている。 《京丹後史博士の認定者数》 京丹後市文化財保存活用地域計画において、博士講座を改編し、資料調査講座、ガイド育成講座を実施することを実行計画としてあげるなど、より具体的な人材育成に資するような方針に変更したため、京丹後史博士の認定者数に変更はない。令和6年度はガイド育成にも資する内容の講座として、「京丹後の歴史文化を学ぶ」と題し合計4回開催し、延べ107人の参加があった。地域計画に基づき、ガイド育成などの参加型の講座内容を検討し実施していく予定。 《文化協会加盟サークル数》 コロナ禍による活動の停滞及び会員の高齢化等のため多くの団体が脱退した(加盟団体112団体)。そのような状況の中でも、各加盟団体が実施する教室や大会、市協会が実施する総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援する必要がある。 《文化芸術事業の開催回数》 優れた文化芸術を鑑賞・体験できる機会の創出に努めたとともに、地域文化活動の普及・振興を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。また、「京丹後市文化芸術振興計画」を適正かつ効果的に推進し、文化芸術によるまちづくりを具体的に進めるため「京丹後市文化芸術のまちづくり推進会議」が発足した。 《京都府丹後文化会館利用者数》 コロナ禍に落ち込んでいた入場者数は令和5年度によりやく回復の兆しが見えてきたものの、まだホール稼働率はコロナ禍以前の数値には戻っていない。近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和6年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	令和4年度で策定した京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、庁内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の整備のほか、ガイダンス施設、進入道路、駐車場の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。
	4	市文化芸術振興計画に基づき、関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	1,855千円	1,866千円	11千円	99.4 %		
	目	05 資料館費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	事業	01 郷土資料館管理運営事業				1,716千円		
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進					
目的	郷土資料館は、市内の主に民俗資料等を整理・収蔵・調査・公開する施設である。特色ある本市の文化・風土・伝統などを紹介し、文化財の保存活用、普及啓発を図る拠点施設として位置付けている。 また、「丹後学」など学校教育とも連携を図りながら、市内小中学生へ向けて郷土の歴史文化への興味関心を高める役割も果たす。		主な財源	使用料 郷土資料館入館料 19千円				
主要な事業・事業の概要	○郷土資料館の維持管理、展示等に関する経費		1,855千円	【企画展示・イベント】				
	・維持管理経費		1,080千円	【企画展示・イベント】				
	（燃料、光熱水費、修繕料、通信費）			【企画展示・イベント】				
	・施設保守管理経費（貯水槽、浄化槽、消防設備）		188千円	【企画展示・イベント】				
	・施設警備委託料		86千円	【企画展示・イベント】				
	・使用賃借料（コピー機借上料）		154千円	【企画展示・イベント】				
	・その他事務経費（消耗品）		136千円	【企画展示・イベント】				
	・原材料費（資料館まつり体験用）		9千円	【企画展示・イベント】				
	・報償費（織機調整・実演）		12千円	【企画展示・イベント】				
	・食糧費		1千円	【企画展示・イベント】				
・ごみ持込処理手数料		2千円	【企画展示・イベント】					
・雑木伐採委託料		187千円	【企画展示・イベント】					
成果・課題			【企画展示・イベント】					
			【企画展示・イベント】					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	11,261千円		11,301千円	40千円	99.6 %			
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課	
	事業	02 指定文化財等管理事業					9,927千円			
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補	デザイン 刈田園都市国家構想交付金（1/2）				267千円		
	国補		国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（65/100）				2,923千円			
	繰入金		文化財保存活用基金繰入金				2,000千円			
目的	市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、所有者に対し修理や保全に係る補助金を交付するとともに、市所有の重要文化財等の保存処理及び修繕を実施する。また、市内指定文化財（国、府、市指定文化財）等を適切に維持管理し、指定文化財等の普及啓発を図る。									
主要な事務・事業の概要	○京丹後市指定文化財等補助事業		19件	2,999千円	○コウノトリ緊急対応関係経費					341千円
	・京丹後市指定文化財等補助金			2,987千円	モニタリング監視員設置、個体識別のための足環装着を実施。					
	・職員旅費、有料道路通行料			12千円	○丹後震災記念館絵画の補修（3か年事業の2年目）					1,123千円
	神社・寺院や覆屋等の修理、民俗芸能の道具の修理・新調などを支援。 ＜参考＞【令和5年度実績】14件、2,500千円				○丹後震災記念館耐震化・利活用検討経費					834千円
	○指定文化財等維持管理費			1,355千円	丹後震災記念館耐震化・利活用検討事業を立ち上げ、検討委員会やパブリックミーティング等を通して方針書を取りまとめた。					
	・国府市指定史跡等草刈委託料（神明山古墳ほか6件）			597千円	・検討委員会開催経費（委員8人、オブザーバー3人、5回開催）					352千円
	・文化財施設環境美化委託料（竹野神社周辺ほか11件）			480千円	・パブリックミーティング開催経費					181千円
	・文化財施設光熱水費（丹後震災記念館電気代・電話代）			37千円	コーディネーター謝金（1人）					63千円
	・消防設備等保守点検委託料（丹後震災記念館）			11千円	印刷製本費（開催広報用チラシ・ポスター）					118千円
	・雑木伐採委託料（丹後震災記念館）			110千円	・プロジェクト広報経費（東京都復興記念館視察等）					126千円
成果・課題	・文化財施設修繕料（丹後震災記念館トア修繕等）			86千円	・丹後震災記念館内部整理経費					175千円
	・土地借上料（史跡、文化財看板設置土地借上料）			3千円						
	・消耗品費（経塚古墳管理用除草剤等）			31千円						
	○湯舟坂2号墳出土金属製品保存科学処理委託事業			4,609千円	○文化財の保全のために修理等への補助金を交付し、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。					
	・保存科学処理委託料（4か年事業の3年目）			4,515千円	○コウノトリの営巣に伴い必要な保護活動を行うことができた。					
	・文化庁係官派遣旅費（費用弁償）			48千円	○丹後震災記念館の今後の方針を取りまとめることができた。					
	・職員料費、有料道路通行料			39千円	○史跡や周辺環境整備により、文化財保全や利用促進につながった。					
	・事務経費（消耗品費）			7千円	○文化財看板等の計画的な整備に努め、利便性向上と文化財の保護啓発を図るとともに、丹後震災記念館の今後についてより具体的な検討を行っていく必要がある。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	04 社会教育費	54,002千円		132,428千円	78,426千円	40.7 %							
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課					
	事業	03 遺跡整備事業					131,028千円							
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源	国補	デザイン 刈田園都市国家構想交付金（1/2）				309千円					
	地域の特色と歴史を物語る重要な史跡等を有効に活用するため、史跡整備を推進する。 国史跡網野銚子山古墳の保存・活用に向け、令和6年度は、埴輪列一部復元、説明板等設置、休憩施設建築、駐車場・道路整備などなどの環境整備を実施し、整備完了を予定している。			国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2）				13,996千円					
				市債	遺跡整備事業債（合併特例債）				35,900千円					
主要な事務・事業の概要	○網野銚子山古墳整備関係経費		52,104千円	○史跡整備検討委員会経費						167千円				
	・網野銚子山古墳イラスト製作謝金		150千円	・史跡整備検討委員会委員報酬（委員15人、3回開催）						120千円				
	・文化庁調査官指導旅費		12千円	・委員費用弁償						47千円				
	・消耗品費		33千円	○環境整備関係経費						450千円				
	・建築確認申請手数料		28千円	・網野銚子山古墳周辺下草刈委託料						450千円				
	・工事設計委託料		4,527千円	<table border="1"><tr><td rowspan="2">参考</td><td>繰越明許費を除いた最終予算額</td><td>54,013千円</td></tr><tr><td>実質的な予算執行率</td><td>99.9%</td></tr></table>						参考	繰越明許費を除いた最終予算額	54,013千円	実質的な予算執行率	99.9%
	参考	繰越明許費を除いた最終予算額	54,013千円											
		実質的な予算執行率	99.9%											
	・工事監理委託料		1,121千円											
	・測量委託料		2,145千円											
・復元品（埴輪）製作委託料		6,831千円												
・工事請負費（埴輪設置工事、解説板設置工事等）		37,147千円	■令和7年度への繰越事業						78,415千円					
・水道加入負担金		110千円	・網野銚子山古墳整備事業（令和7年12月完了予定）						78,415千円					
【令和6年度整備内容】 古墳墳丘上の埴輪列復元15基、説明板6基・誘導板3基の設置、銚子山古墳から駐車場までの135m分の通路の舗装														
成果・課題	○網野銚子山古墳啓発関係経費		1,281千円	成果・課題	○網野銚子山古墳について、史跡整備検討委員会の指導を受け、古墳の保存・活用を図るための環境整備工事を進めることができた。 ○墳丘など史跡地内の整備工事は完了したものの、ガイダンス施設及び駐車場の整備については、土壌改良が必要となったため繰越事業として工事を実施することとなり、事業報告書の作成とともに令和7年度に繰越した。									
	・職員旅費、有料道路通行料		31千円											
	・消耗品費、印刷製本費		750千円											
	・ツアー企画委託料（日本海三大古墳巡り）		500千円											

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	2,637千円		2,738千円	101千円	96.3 %		課	文化財保存活用課
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額			
	事業	04 遺跡発掘調査等事業					2,602千円			
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2）					1,150千円	
	府補		埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金（1/4）					575千円		
目的	市内に残る遺跡等の適正な保存・活用のため、開発に先立つ発掘調査を実施して開発事業との円滑な調整を図るとともに、状況確認のための発掘調査及びその成果をまとめる整理作業を実施し、公表する。									
主要な事務・事業の概要	○網野銚子山古墳・三宅遺跡発掘調査経費				1,679千円	○田村関遺跡発掘調査経費				551千円
	・会計年度任用職員任用経費（2人）				1,180千円	・会計年度任用職員任用経費（2人）				462千円
	・旅費（調査旅費・協議旅費）				15千円	・需用費（消耗品）				2千円
	・需用費（消耗品、燃料費）				128千円	・報告書印刷製本費（300部）				43千円
	・報告書印刷製本費（300部）				44千円	・使用賃借料（パソコン借上料）				44千円
	・役務費（し尿汲取手数料）				2千円	＜調査概要＞ 【田村関遺跡（整理作業のみ）】				
	・使用賃借料（仮設トイレ借上料）				22千円	府営ほ場整備計画に先立ち、令和5年度に実施した範囲確認調査の整理作業及び報告書作成を実施した。				
	・使用賃借料（発電機・水中ポンプ借上料）				26千円	○高山12号墳大刀保存処理経費				407千円
	・使用賃借料（重機借上料）				209千円	・高山12号墳大刀保存処理委託料				407千円
	・使用賃借料（パソコン借上料）				43千円	以前の保存処理で製作されたアクリル製の安定台の劣化により、資料とアクリル板が圧着。取り外す際に破損したため、修復等を行った。				
	・使用賃借料（有料道路通行料）				10千円					
	＜調査概要＞ 【網野銚子山古墳・三宅遺跡】									
	網野銚子山古墳の史跡整備に関連して市道を整備するため、国指定史跡銚子山古墳及び隣接する三宅遺跡の状況確認調査を実施。整理作業及び報告書を作成した。					成果・課題	○網野銚子山古墳（網野町網野）では、古墳の東側に沿った道が周溝の造成に伴う土地改変により残されたものであることの知見を得た。また、三宅遺跡（網野町網野）では、弥生土器が確認された。 ○田村関遺跡（久美浜町田村）の調査では、遺跡の広がりや遺物の状況などを報告書として刊行し、その成果を市民に公表した。 ○高山12号墳（丹後町徳光）大刀保存処理では、破損の修復を行うとともに、クリーニングや酸化防止保護膜のほか、シリコン製安定台を製作し、貴重な文化財を次世代につなぐ保存処理等を行うことができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	04 社会教育費	597千円		598千円	1千円	99.8 %		課	文化財保存活用課		
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額					
	事業	05 地域文化財総合活用推進事業					651千円					
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源									
目的	文化庁の認定を受けた「京丹後市文化財保存活用地域計画」により、京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民遺産会議を運用するほか、京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会による進捗管理などを行う。											
主要な事務・事業の概要	○文化財保存活用地域計画推進協議会開催経費（委員15人） ・協議会委員謝金 2回開催、4千円×延べ19人 ・委員費用弁償 ○京丹後市市民遺産会議（委員5人） ・市民遺産会議委員謝金 3回開催、4千円×延7人、7千円×延べ4人 ・委員費用弁償 ・市民遺産周知用チラシ・ポスター印刷（全戸配布） ○「京丹後歴史文化めぐりマップ」運用経費 京丹後市文化財保存活用地域計画に示した4つの歴史文化の特徴と11のストーリーを紹介するデジタルマップ（令和5年度製作）のサーバー使用料				131千円 76千円 55千円 182千円 56千円 12千円 114千円 284千円							
					成果・課題	○推進協議会や市民遺産会議の開催、市民遺産5件の認定、京丹後歴史文化めぐりマップの運用により、京丹後市文化財保存活用地域計画で示した本市の歴史文化を掘り起こし広く周知するとともに保存活用をより一層推し進めることができた。 ○今後は、計画見直しに向けた計画全体の評価方法の検討や、認定市民遺産の保存活用とその支援策の検討、京丹後歴史文化めぐりマップの活用等をより推進していく必要がある。						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																		
	項	04 社会教育費	52,397千円		52,398千円	1千円	99.9 %	課	文化財保存活用課																		
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額																				
	事業	06 文化財保存活用基金					1千円																				
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	財産収入 文化財保存活用基金利子収入 28千円 寄附金 ふるさと応援寄附金 52,369千円																						
目的	京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、本市の貴重な文化財の保存及び活用を進めることを目的に、「文化財保存活用基金」に積み立てを行うもの。																										
主要な事業・事業の概要	京丹後市文化財保存活用基金にふるさと応援寄附金からの積み立てを行った。 ○文化財保存活用基金積立金 52,397千円 (単位：千円) <table><thead><tr><th rowspan="2">令和5年度末 現在高</th><th colspan="3">令和6年度中増減額</th><th rowspan="2">令和6年度末 現在高</th></tr><tr><th>繰入金</th><th>運用利子</th><th>積立金</th></tr><tr><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>①-②+③+④</th></tr></thead><tbody><tr><td>34,586</td><td>2,000</td><td>28</td><td>52,369</td><td>84,983</td></tr></tbody></table>				令和5年度末 現在高	令和6年度中増減額			令和6年度末 現在高	繰入金	運用利子	積立金	①	②	③	④	①-②+③+④	34,586	2,000	28	52,369	84,983	成果・課題				
						令和5年度末 現在高	令和6年度中増減額			令和6年度末 現在高																	
					繰入金		運用利子	積立金																			
					①	②	③	④	①-②+③+④																		
					34,586	2,000	28	52,369	84,983																		

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局											
	項	04 社会教育費	10,329千円		10,329千円	0千円	100.0 %		課	文化財保存活用課										
	目	05 資料館費					(参考)当初予算額													
	事業	03 資料館等指定管理施設運営事業					10,329千円													
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進																	
目的			琴引浜鳴き砂文化館は、本市の豊かな自然環境のシンボルである琴引浜の鳴き砂についての展示や様々な体験事業を実施し、普及啓発を行う施設である。 また、世界認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設としても位置付けており、他の関連地域や施設と連携し積極的な事業展開に努める。																	
主要な事業・事業の概要	鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、琴引き浜鳴り砂を守る会が管理運営を行った。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。 ○琴引浜鳴き砂文化館指定管理委託料 9,042千円 ○使用料及び賃借料 1,287千円 ・駐車場用地の一部にある民間土地借上料（518.81㎡） ・建物の所有者である公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料			【入館者数・推移】 開館日数 約300日／年																
				<table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>6,055人</td><td>6,443人</td><td>7,692人</td><td>7,936人</td><td>8,713人</td></tr></table>					R2	R3	R4	R5	R6	6,055人	6,443人	7,692人	7,936人	8,713人	※R2、R3は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館期間あり	
				R2	R3	R4	R5	R6												
				6,055人	6,443人	7,692人	7,936人	8,713人												
				成果・課題																
○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、「丹後学」をはじめとする市内学校の見学対応のほか、館内展示のリニューアルを行うなど、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。 ○施設修繕を計画的に実施し、適正な管理運営に努める必要がある。																				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	105千円		106千円	1千円	99.0 %		課
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額		
	事業	01 文化財保護審議会委員設置事業					167千円		
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源					
目的	文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。								
主要な事務・事業の概要	○文化財保護審議会の開催経費				81千円				
	文化財指定、市指定文化財の管理、現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため審議会を開催。（委員定数：10人） ※別途自由参加の文化財見学会を2回実施。								
	・報酬（半日×2回、4千円×延べ17人）		68千円						
	・費用弁償		13千円						
○両丹文化財保護連絡協議会開催経費				24千円					
開催は北部市町の輪番制、令和6年度は福知山市で開催 場 所：福知山市大江町総合会館イベントホール 参加者：京都府北部の各市町の文化財に携わる委員及び担当職員 テーマ：「郷土の文化財に関すること」（令和6年11月25日） 北部市町の参加者による事例発表・情報交換等を実施するとともに、京都芸術大学名誉教授伊達仁美氏の記念講演により、災害による被災文化財とそれらの救援方法などについての知見を深めた。									
・報酬（半日、4千円×5人）		20千円							
・費用弁償		4千円							
				成果・課題	○文化財保護審議会において、令和7年度に新規の市指定文化財を指定するために、審議会において意見を聴取し検討を深めることができた。 ○両丹文化財保護連絡協議会に参加し、京都府北部の文化財の事例や取り巻く課題について共有することにより、市の文化財や歴史文化の正確な評価を下す一助となるとともに、増加する自然災害から、文化財を次世代に継承していく術を知る良い契機とできた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	381千円		385千円	4千円	98.9 %		課
	目	07 文化財保存活用費					(参考)当初予算額		
	事業	50 文化財保存活用一般経費					329千円		
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	諸収入 文化財関係書籍販売代金 50千円				
目的	文化財の保存と活用を図るため、資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行うとともに、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。								
主要な事務・事業の概要	○文化財収蔵施設維持管理費（5か所） 242千円 資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費 十楽収蔵庫（久美浜町十楽） 網野出土品収蔵庫（網野町網野） 旧成路分校（峰山町鱒留） 旧三重保育所（大宮町三重） 高嶋寮（丹後町上野） ・光熱水費、十楽収蔵庫水道閉栓手数料 34千円 ・草刈委託料 79千円 ・高嶋寮窓割・窓枠倒壊修繕 107千円 ・消耗品費（文化財保護提要代含む） 22千円			○文化財関係加盟団体負担金 90千円 ・全国史跡整備市町村協議会・近畿地区協議会 50千円 ・全国鳴き砂ネットワーク 20千円 ・全国鳴砂サミット（秋田県仙北市） 20千円 ○事務経費 49千円 全国史跡整備市町村臨時大会旅費（旅費・宿泊費） ・全国史跡整備市町村協議会臨時大会出席旅費（担当職員1人） 開催日：令和6年11月15日 東京都 内 容：陳情活動					
				成果・課題	○文化財保存活用事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保存と活用を図ることができた。 ○旧町からの文化財収蔵施設の集約を今後進めていく必要がある。				